

# 伊予弁



活(い)かされて、生かされる

朝倉雪江 | 宇和島市・ウェブ開発者

しばらく「生きる意味」を考えていた。今のところの結論は「特にない」。否定的に捉えているのではなく「ならばもう少し気楽に生きてもよいのでは？」と自問する感覚だ。

これまでやりたいことはおおよそ実現してきた。思い浮かべたことは何でも実行してきたし、できる道筋を考える。今いるITの分野も学生の頃に憧れたのがはじまり。在学時から現在に至るまで、いつだって背伸びしながら愚直に対象を広げてきた。

宇和島へ移り住んだのは、ささいなご縁からのただの気まぐれ。蔣淵に引かれ来てみたものの「飽きたら帰ろう」くらいに考えていた。それがいつの間にやら都会で暮らしていた時よりIT面での活躍が増え、顔の見える関係も広がり、求めに応じて種々取り組むうちに「自分が貢献できるのは地方なのかも」と思うようになった。

ヒトは他を喜ばせることで自身も幸せに感じられるハッピーな生き物といわれている。確かに初対面の人が相手でも己の行為を感謝される時、ちょっといい気分になるのは経験済みだ。

人生の終着点は「死」と決まっておき、時折何のために生きているか分からなくなったりもする。けれども、ゆえに誰かのために自分を活(い)かすことが、生きる意義を見いだす鍵なのかもしれない。ならばこれからの人生「なるべく人の役に立ちながら、それを楽しむ生き方をしていこう」と、新年の幕開けとともに気持ちを新たにした。

※朝倉雪江さんの執筆は今回で終わりです。